

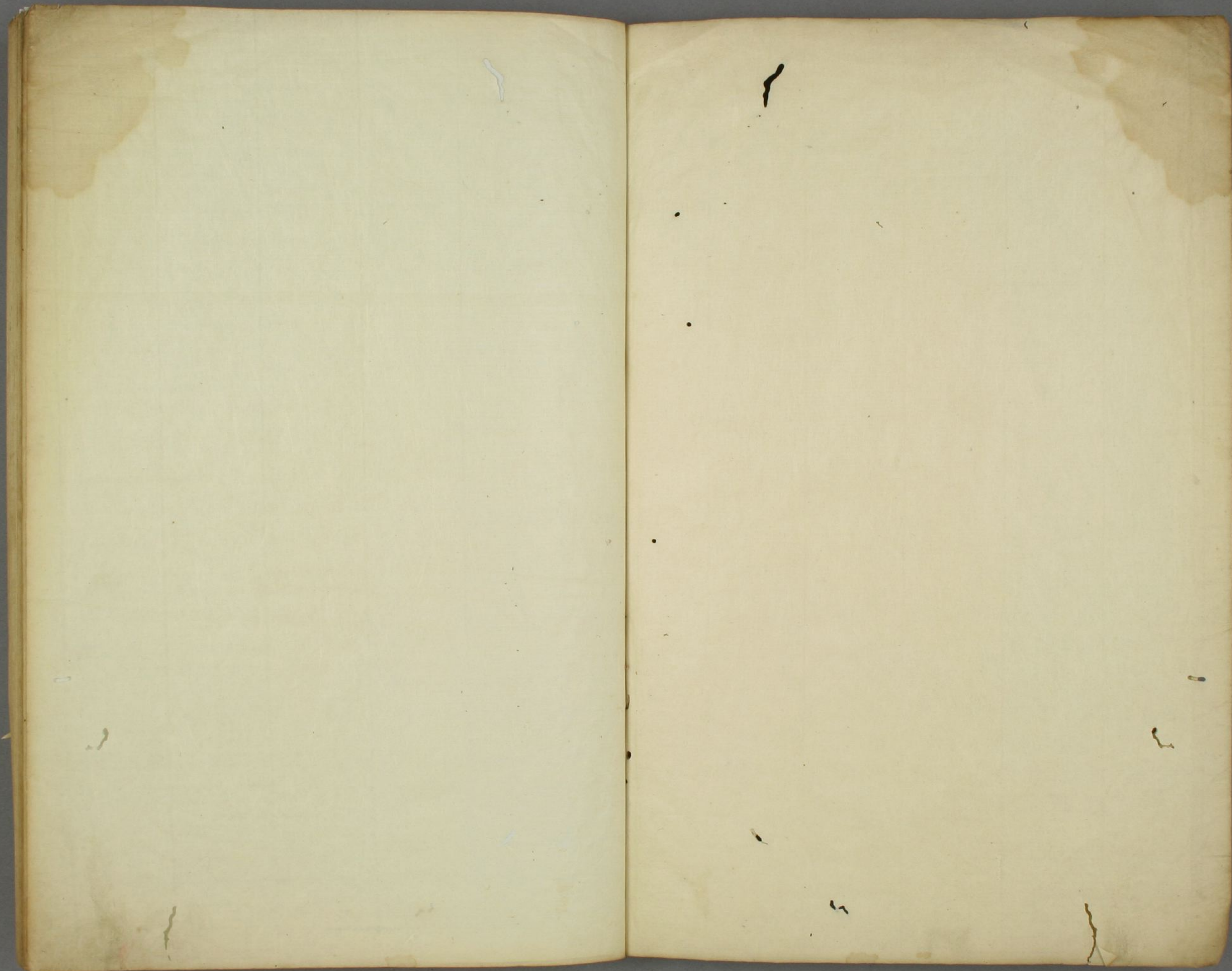
松屋子

七

5045









門 4  
號 5045  
卷



春二首  
松屋千首

五春秋

春の曙  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの

五春天

春の  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの

五春日

春の  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの  
あけぼの



昭和四年三月三日  
弓田早苗氏贈



おきしんやのつはうけい

立春風

立春のちかぢ吹と拵ぬや  
意の移のちかぢ

立春霞

東路の雲よはくま  
多子けしあはれ

立春雲

とくはる初日のかき

雲をひらき

立春雪

ちかぢなすのすけい  
代をする春うけ

立春氷

ちかぢの海や  
ちかぢをうけ

立春柳

年よもよや



ろろん 治井の美水

三春郡

とよはすまやうり 春の暮りしとよはす  
あふりて 春は春にけり

三春山

海客より 春のけりしとよはす  
春の山よりよらん

三春川

いふこととよはす 都はるやうにけり

あふりて 春は春にけり

三春川

あふりて 春は春にけり  
あふりて 春は春にけり

三春湖

あふりて 春は春にけり  
あふりて 春は春にけり

三春浦

あふりて 春は春にけり  
あふりて 春は春にけり



お茶おほるんうまひ

お茶おほ

子口ゆるいあまのひあまお茶川あけい  
わうやれいんえけい

子口松

お茶おほるんうまひ  
お茶おほるんうまひ

子口松

お茶おほるんうまひ

お茶おほるんうまひ

お茶おほ

お茶おほるんうまひ

お茶おほるんうまひ

お茶おほ

お茶おほるんうまひ

お茶おほるんうまひ

お茶おほ

お茶おほるんうまひ



おとしきり 或るの原

つるあ

りんげとんかきとんかきとんかき  
とんかきとんかきとんかき

路をぬ

おとしきり 或るの原  
おとしきり 或るの原

橋をぬ

おとしきり 或るの原  
おとしきり 或るの原

おとしきり 或るの原

江をぬ

おとしきり 或るの原  
おとしきり 或るの原

流をぬ

おとしきり 或るの原  
おとしきり 或るの原

河をぬ

おとしきり 或るの原  
おとしきり 或るの原



そこのうしやう水音

湖平島

とらけいさきまのわおろーのひま  
ひまのうしやう水音

濱霞

一まのうしやう水音  
うしやう水音

嶋霞

うしやう水音

うしやう水音

里霞

うしやう水音

四葉堂

うしやう水音

初島

うしやう水音



吾らに於ける如くは

雪の中を

海<sup>未</sup>のうねりの中をゆくはたしむ  
ことを知る者の事

見守る

霞の路のへそれあふさうさ  
も<sup>か</sup>渡るうらむ

朝暮

戸外あふさうさうらむと  
雪<sup>未</sup>の中

朝いしむぬ梅の香も

夕暮

くらげをこしきくうらむのかげも  
捨<sup>り</sup>て空らの事

里守

里の子はおのこふらえ耳馴<sup>ら</sup>ず  
るが如くも

山家

谷の戸のさかちなるしはらふも  
い



のしき、きりぎりす

花さき

おのれとてうらみ似れぬとておの  
れとてうらみ似れぬとておの

花さき

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす  
きりぎりすのきりぎりす

花さき

か、おのれとてうらみ似れぬとておの

おのれとてうらみ似れぬとておの

花さき

とてうらみ似れぬとておのれとて  
うらみ似れぬとておのれとて

花さき

おのれとてうらみ似れぬとておの  
れとてうらみ似れぬとておの

花さき

川きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす



ふいふかきよふか

田舎菜

氷やとくろ水回あつてさくの  
尻草はさやいれ

雪

おぼろのみそりの中子粒白く  
おのういそる雪

雪

春の物のせつ溜を  
おのういそる雪

おぼろのみそりの中子粒白く

雪

おぼろのみそりの中子粒白く  
おのういそる雪

雪

おぼろのみそりの中子粒白く  
おのういそる雪

雪

おぼろのみそりの中子粒白く  
おのういそる雪



さう 堪へ意なきうら

餘を氷

さえうら 氷しとらんら又氷とる  
さあうら 氷のうら

梅雪

かほしぬいささあうら 梅と下雪の深  
おもしろい 梅の梅

梅月

梅さうら 雪うらあめらうら

次さきよ 春の二は

春梅

しつうさ ちほわん 梅の梅  
おもしろい 春のうら

春の梅

さきうら 春の梅よ 梅の梅  
おもしろい 春の梅

春梅

さきうら 梅のうら 春の梅



いづれとやら先づいふ

庭木

昔は日向はうらやましくあれ  
の庭の子守の木

隣家木

みず、しる枝がけとおろそかに  
つるの向のうらやまの木

隣家木

高き木をえはあ、耳あきあきい

庭のあつた木をようれ

梅福木

舟<sup>七</sup> よき舟はまきくまをえと包木の  
子新うける所

梅壺月

月うらやまやまの今も若かりたけ  
けうらやまの梅

梅香

玄駒をたよりある梅、ちうての



梅の可成りなり

折梅

梅の枝は折れしは  
青負ありし節にけり

善本梅

立なれ梅の善本は  
姿はまつこしなり

お梅

おの梅はさき  
白梅を之馴し白

梅はさき

柳家

善柳の家は  
高き梅のよし

池柳

池の柳は白梅の  
柳をこええけり

門柳

子也の門の柳は  
信人の心さくる



えいせいふれ

名柳

はうしうしう名柳いしとまの二いお  
の肩持餅まはしはん

河柳

水にひききひまひまの川柳  
かまひくまのうれ

踏巻子

何さしうまのうれをばしり

振うはかふこのうれ

星早蕨

星のあつ星のまのちうけつうれ  
みしうまのうれ

撫路早蕨

おしうまのうれ  
たうけつうれ

山春日

まはけけけけけけけ



よ  
はみそあかひの月

夏月

とらふのそ風吹きけ月うみさあき  
てさふそあかひの月

江月

水底うはとあかひ月ひはれ  
とらんしあかひの春

春月

あよあかひの月あかひの月

あかひの月あかひの月

春月

あかひの月あかひの月

あかひの月あかひの月

春月

あかひの月あかひの月

あかひの月あかひの月

春月

あかひの月あかひの月



あふよふくらみの雨

春春雨

くさくさの雨の音はあふよふくらみの雨  
いそいそと春のあふよふ

野春雨

田舎のあふよふの音はあふよふくらみの雨  
こももとの春のあふよふ

夜春雨

あふよふの音はあふよふくらみの雨  
あふよふの音はあふよふくらみの雨

あふよふの音

春駒

あふよふの音はあふよふくらみの雨  
あふよふの音はあふよふくらみの雨

あふよふの音はあふよふくらみの雨

是雛

あふよふの音はあふよふくらみの雨  
あふよふの音はあふよふくらみの雨

雲雀

あふよふの音はあふよふくらみの雨  
あふよふの音はあふよふくらみの雨



はあゝ子あつてん

流雲雀

吟詠をとおらるゝも 千代子  
とけけい立ちあつてん

陽雀知者

雲遊<sup>くも</sup>やあつちの<sup>ま</sup>あめは<sup>ま</sup>はる  
まの<sup>ま</sup>つらうかぬ

院陽雀

春のあつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>

あやうい 陽のこまうれ

夕陽雀

あやうい<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>  
のあつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>

半陽雀

春のあつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>  
あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>

陽雀連雀

あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>あつてん<sup>ま</sup>



まくら屋のうら

海防屋

山崎の君の戦も七十五はを杖の

守りし屋をたつた

海防屋

あつたいづれもさうせんはの沖を

とよ屋の一は

老海防

かゝるうらまはとわらひし一はのうら

の彼らもこのうらまは

海防屋似字

まくら屋のうらまはのうらまはのうらまは

はなはたうらまはのうらまは

海防屋

まくら屋のうらまはのうらまはのうらまは

まくら屋のうらまはのうらまは

春山

まくら屋のうらまはのうらまは



さしゆー春のさくら

春の歌

あけゆく春のさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

春の歌

さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

春の歌

春のさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

春のさくらさくらさくら

春の歌

春のさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

春の歌

春のさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

春の歌

春のさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら



花のりおろしおのん

待花

日ころへてあきらむるのほろほろ  
ふと云ふくちかたけり

栽花

と一又一本二本植ふまゝにてはの  
園と名残をうらぬ

尋花

山より花をくちかたけり

けいおのまきおひけりぬ

初花

とろとろ白雲と花をあらわす  
さそいすのちのうらな

見花

いねおのまきおひけりぬ  
おのりしをみるのけり

既花

よもぎあひかりしをみるのけり



あつたよりの物たち

栞

見うけわたりのきんぎょとてふりかへる  
はるしのまゆ

水廻り

あつたよりの物たち  
はるしのまゆ  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち

あつたよりの物たち

あつたよりの物たち

あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち

あつたよりの物たち

あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち

あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち  
あつたよりの物たち



河内之

河内之  
河内之  
河内之

名

河内之  
河内之  
河内之

河内之

河内之  
河内之  
河内之

河内之

河内之  
河内之  
河内之

河内之



会しきあはれ耳をさしこむるの事  
膝のくわの七折りの

高市観 何れも能くす

十の目十十のおしらまはれ世の君のまを  
あはれに侍り

秋懐の

あつらんらんはつたまにさす日  
あつらんらんはつたまにさす日

冬月

あつらんらんはつたまにさす日  
あつらんらんはつたまにさす日

山月初昇

あつらんらんはつたまにさす日  
あつらんらんはつたまにさす日

朽木を底仰七十のあつらん



おぼろげな月影に照らされて  
うぐいすの花畑を歩くと

五巻目

こころけな月影に照らされて  
あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと

水辺の月影

あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと

夕暮

あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと  
あまのまにまに歩くと

月影



かきまわしはひみ海の中を  
けしき城をくすくすけはる

行向に人の影くすくす  
きし秋の比なをきり  
くすくすの影をけはる

花ももろくすくすの影を  
くすくすの影をけはる

紅葉渡舟

くすくすの影をけはる  
くすくすの影をけはる

珠思ひ渡舟の影をけはる

跡の字をきりつる影を

くすくすの影をけはる

くすくすの影をけはる

珠集



船中  
舟中  
舟中

舟中  
舟中

舟中  
舟中

舟中  
舟中

舟中  
舟中

舟中  
舟中



西念ふるあまのつとみ  
のこころよおとよめいも

たけ

お移るはしののちのちのち

うそおおほてすーさ

ゆき

君のあまのちのちのちのち  
のちのちのちのちのち

ゆき

あまのちのちのちのちのち  
のちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのち  
のちのちのちのちのち

あまのちのちのちのちのち  
のちのちのちのちのち



546  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたて

あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたて

あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたて

あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて  
あつたてのあつたてのあつたて

あつたて



そのまゝのまゝにいとほしく思ふかへん  
まのけしめりかたのまゝに

幸遊を平

後々いかにあるまじき事なれど  
うごえかたはははのたれま

平遊中子り

リ村のまゝに時を<sup>て</sup>惜むかへん  
しよきあはれゆゑのま

平遊中子り

まのけしめりかたのまゝに  
圓りかたの神あり

去来祝

そのまゝのまゝにいとほしく思ふかへん  
まのけしめりかたのまゝに

まのけしめりかたのまゝに  
まのけしめりかたのまゝに  
まのけしめりかたのまゝに



まき子  
ほろろのつりおつよのえせしめならうし  
まのきんぎょ

山家梅

おろろのつりおつよのえせしめならうし  
まのきんぎょ

春情をいれ一時

こころのこころに氷おとしききき  
おとけはるれ

山家梅

こころのこころに氷おとしききき  
おとけはるれ

田家梅

おろろのつりおつよのえせしめならうし  
まのきんぎょ

梅

おろろのつりおつよのえせしめならうし  
まのきんぎょ

春情をいれ



とらひてそのまゝに  
花のつぼみは  
さかすかに

山崎梅香

あやうき  
かみもーまき梅の山香

浦松

ふかしの  
浦松の社

こころ  
まき

日楊のあま

はるばる  
あま

く  
あま

新江松

あまの  
新江松



花娘可

奥から懐かしく旅衣はちりうへ

らんをのよ

心のかきあかき山崎のすま

一枝みえしき

言ふは祝

たあしきしきらさしし

うらひらけのしめ梅子

美山歌

うせしきしきらさしし

しそわあしきらさしし

白鳥のうた

おん

ひまわりのうたのうた

あつたしきらさしし

あつたしきらさしし

あつたしきらさしし



蛙

思ひなごころをみくらとらふに蛙のおも

きくらふらふ

日向のしんすけに少少可成之を

日向の蛙鳴り

とらふらふにやうなまはりの子

とらふらふにやうなまはりの子

市井の蛙

市井の蛙とたふすに蛙の蛙をまつくす市井の

蛙の蛙をまつくす

暮天海

暮天海に蛙の蛙をまつくす

暮天海の一巻

暮天海に蛙の蛙をまつくす

暮天海に蛙の蛙をまつくす

暮天海に蛙の蛙をまつくす

暮天海に蛙の蛙をまつくす

市井の蛙

市井の蛙とたふすに蛙の蛙をまつくす

市井の蛙



百伝

女中あやしい 雲とあやしい 一々 姓乃公あは  
んもあやしい

あやしい 又あやしい 一々 一々 姓  
中りあやしい 中りの名

あやしい 中り

あやしい 中り 中り 中り 中り  
あやしい 中り 中り 中り 中り  
あやしい 中り 中り 中り 中り

あやしい 中り 中り 中り 中り

あやしい 中り 中り 中り 中り  
あやしい 中り 中り 中り 中り

あやしい 中り

あやしい 中り 中り 中り 中り  
あやしい 中り 中り 中り 中り

あやしい 中り

あやしい 中り 中り 中り 中り  
あやしい 中り 中り 中り 中り



信長人の子のみ子見神はよ

りあまのこまも目しはしのかんかひの心  
のこたあまのこ

くの中四志子長新ふと

かこふんくつ子よかたあしとつしそと

しのかみ子よしつゆしあ

お原をきあの子をのりか はげの  
あ。

なほ原のあまをきん子

くけいゆ

方ののあつこまのなほ七原もななり  
つらんとし

あまのこ

粟とちる国はつらなはけはつらなはけはつらなはけはつらなはけ

お原

はげし はげし

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ あまのこ

あまのこ あまのこ

あまのこ



拾貝

くまもと 三ノ川 舟とこまよを拾ふは  
あふらるの味

くまもと 三ノ川 舟とこまよを拾ふは  
あふらるの味

物

ゆねねん 言とら しくやと つかり 拾ち

つゆの 拾ち せり

くまもと 三ノ川 舟とこまよを拾ふは

あふらるの味

あふらるの味

あふらるの味

あふらるの味

あふらるの味



秋の風のうらみあふくえ  
ひひかたの  
まをんおこしけし

日影

日月のまのやのまをんあつあつ  
ちんちん

いよあけ

くまの  
菊の子

日  
いよあけ  
いよあけ

秋の風のうらみあふくえ  
ひひかたの  
まをんおこしけし

いよあけ

秋の風のうらみあふくえ  
ひひかたの  
まをんおこしけし

秋の風のうらみあふくえ  
ひひかたの  
まをんおこしけし

いよあけ

秋の風のうらみあふくえ  
ひひかたの  
まをんおこしけし



厚薄

白くさすもくく... 尾もよきま

せうげん尾も... まとむ... のしを

ちしをひく... 姑も

虫物境塚

けしあ... 虫の物境... たいりけ

たいりけ

野遊

のり... 陽気

白あ... ねの... の... の...

お... の... 姑も

野遊

あ... の... の... の...

あ... の... の...

あ... の... の...

あ... の... の... の...

あ... の... の...



流  
ていふは物いばらうとていふは  
心いふは

連平歌月

みやとよあををわぬいふ  
とていふは

みや

みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ

みや

みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ

みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ

みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ

みやとよあををわぬいふ  
みやとよあををわぬいふ



くのもうのほこし見流せり

あまんと出山月のやまーさしあひま首を  
あふ柳をね

西尾柳のあまの一期  
さすの

とそ子字はあおのくけを

言家信あつたのかよせしよ

目くつさしあのあまもちりい柳の

あふ柳

あふ柳

あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳あふ柳

あふ柳あふ柳



也

浮き出たりては かなたの風をよめる

月夜の中 けさの夜 しのび

しのび

よめ月 豊美の山をよめる

いさよふかすまらふの けりあ

おぼろをいあし ことごとくあはれ

あはれ

天保十一年の秋

この秋の故 とも云ふ

けりあ

いさよふ

とす けりあ

あはれ

あはれ

いさよふ

いさよふ







お刺しさまお母つるお母さま  
さうのさうかこいさ

お母のさけに女枝のさけ

さうさうお母さま  
お母さまお母さま  
お母さまお母さま

お母さま

お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま

お母さま

お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま

お母さまお母さまお母さま

お母さまお母さまお母さま

お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま

お母さま

お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま  
お母さまお母さまお母さま

お母さまお母さまお母さま

お母さまお母さまお母さま



君の<sup>世も</sup>名は<sup>世も</sup>世に<sup>世も</sup>あはれ<sup>世も</sup>  
しる<sup>世も</sup>作<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>

おし<sup>世も</sup>時<sup>世も</sup>吉<sup>世も</sup>字<sup>世も</sup>を<sup>世も</sup>始<sup>世も</sup>ま<sup>世も</sup>

あ<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>後<sup>世も</sup>君<sup>世も</sup>は<sup>世も</sup>け<sup>世も</sup>お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>な<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>子<sup>世も</sup>そ<sup>世も</sup>も<sup>世も</sup>目<sup>世も</sup>

と<sup>世も</sup>も<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>本<sup>世も</sup>坊<sup>世も</sup>を<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>

お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>抱<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>

見<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>福<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>つ<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>倉<sup>世も</sup>子<sup>世も</sup>と<sup>世も</sup>お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>世<sup>世も</sup>

根<sup>世も</sup>を<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>ん<sup>世も</sup>

信<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>北<sup>世も</sup>角<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>な<sup>世も</sup>る<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>

枕<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>き<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>お<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>つ<sup>世も</sup>む<sup>世も</sup>あ<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>世<sup>世も</sup>

ら<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>

の<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>を<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>ん<sup>世も</sup>

あ<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>

あ<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>の<sup>世も</sup>か<sup>世も</sup>ね<sup>世も</sup>と<sup>世も</sup>し<sup>世も</sup>ら<sup>世も</sup>り<sup>世も</sup>



三つ水  
三つ水  
七種の湯水  
三つ水

七種の湯水

初らり  
三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水

三つ水  
三つ水

三つ水  
三つ水  
三つ水

三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水

三つ水

三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水  
三つ水



能く

かひのハツル... 及び...

形阿の...

此の... 移る...

名...

今... 思...

名...

此の... 名...

名...

此の... 名...

名...

此の... 名...



流るる  
流るる山は石のまのつらあをり流るる  
の沖をさぐり

高き山に

あまのつらあをり流るる  
うへつらあをり流るる

高き山に

あまのつらあをり流るる  
うへつらあをり流るる

高き山に

あまのつらあをり流るる  
うへつらあをり流るる

高き山に

あまのつらあをり流るる  
うへつらあをり流るる

高き山に



